

「溶融亜鉛めっき技能検定試験」過去問題解説集の訂正について

令和5年6月

一般社団法人 日本溶融亜鉛鍍金協会

当協会の「溶融亜鉛めっき技能検定試験」過去問題解説集のうち、「令和3年度 2級A群 真偽法 問題10」及び「平成31年度 1級B群 多肢択一法 問題13」の問題解答に誤りがありましたので、お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

当該問題を掲載している「令和2年度版」及び「令和4年度版」の過去問題解説集をご使用される際には、予め誤りを訂正のうえ、ご活用いただきますようお願い申し上げます。なお、下記の下線部分が訂正箇所です。

1. 過去問解説集 令和3年度 2級A群 真偽法 問題10

10 亜鉛は両性金属で、pH6以上、pH12以下の水溶液中では腐食が激しくなる。

(解答) ×

(解説)

亜鉛は両性金属で、水溶液中で安定な pH 範囲は、pH 6 以上、pH 12 以下である。pH 6 ~ 12 の範囲では、金属亜鉛はち密な腐食生成物を形成し、腐食速度が遅くなる。用語の解説 pH と亜鉛の溶解速度参照。

《 平成29年度 2級 A群 4と類似 》

2. 過去問解説集 平成31年度 1級B群 多肢択一法 問題13

13 次のうち、めっき素材に付着しているもので、アルカリ脱脂しても除去しにくいものはどれか。

- イ 水性アクリル樹脂系のペンキ
- ロ エポキシ樹脂系のさび止め塗料
- ハ アルキド（フタル酸）樹脂系のさび止め塗料
- ニ めっき素材製作時に付着した機械加工油

(解答) ロ

(解説)

一般にアルカリ脱脂ではペンキ及び塗料類は除去しにくい。

用語の解説「アルカリ脱脂」、亜鉛ハンドブック(改訂版)p308を参照。

以 上